

# 広島大学

令和6年度 広島大学光り輝き入試

総合型選抜Ⅱ型

## 解答例

文学部 人文学科

地理学・考古学・文化財学コース

地理学

科目名：小論文

解答の公表に当たって、一義的な解答が示せない記述式の問題等については、「出題の意図又は複数の若しくは標準的な解答例等」を公表することとしています。

また、記述式の問題以外の問題についても、標準的な解答例として正答の一つを示している場合があります。

令和6年度 広島大学光り輝き入試総合型選抜（Ⅱ型）

文学部人文学科 小論文問題 解答例又は出題の意図等

分野

地理学

問Ⅰ

繁華街AとBの移動に要する費用や時間の大きな低下は、人々の購買行動を変化させる可能性を有する。すなわち、Aにおいて入手できる消費財の多様性はBよりも大きいため、それまでBを利用していた人々も、より多くの選択肢の中から選べる機会を求めてAに出向いて、そこで購買する可能性が高まる。選択肢の多さは、消費者にとって大きなメリットであり、満足感を得ることにつながるからである。一方、Aを利用していた人々には、あえてBに出向いて、そこで購買する合理的理由は見いだせない。したがって、Aでは、それまでAの顧客であった人々に加え、Bの顧客であった人々も消費者として訪れることになるので、需要の増加が見込まれる。これを店舗数に置き換えると、Aでは増加、Bでの減少につながる。かくして、Aには繁華街としてのさらなる繁栄がもたらされるが、Bはかつての繁華街としての地位を失う。当初AとBの間にあったのは、消費財の多様性における幾分の差に過ぎないが、移動に要する費用・時間の低下が介在することにより、繁華街の盛衰にまで影響する要因となる。(458字)

問Ⅱ

ICTの発展は、オンライン会議やテレワークの普及をもたらし、人々がどこにいてもコミュニケーションを容易に行うことを可能とした。企業が本社に社員を集めて会議を行う必要性も、大学がキャンパスに教員や学生を集める必要性も、ひいては大都市に人口が集中する必要性も減ったように思われる。ICTの発展は、大都市の必要性を減じる方向に作用するのであろうか。答えは否である。まず、電話の普及や電子メールの発達が出張の減少にはつながらず、むしろ顔を合わせての情報のやり取りをする必要性が増した。情報交換のある部分はそれらにより代替されるが、重要な情報や暗黙知の多くは対面でやり取りされるからである。暗黙知は、場所を共有していなければやり取りすることが難しい情報であり、イノベーションのような知的創造には不可欠とされる。雑談も場所を共有していないと生まれないが、それによっても暗黙知や様々な知識、アイデアが人々の間を移動している。また、ICTの発展はSNSを介して人々の新しいつながりを生み出す。それが契機となって、人々が直接顔を合わせて、より重要な情報のやり取りをする機会を作り出している。大都市の本質的な機能は、人々が直接会う機会を提供し、さまざまな情報の受け渡しを容易にし、そして知識創造の場としての役割を果たすことである。ICTの発展は、こうした大都市の機能を補強する方向に作用し、さらなる成長を導くと言える。(600字)